

心理学専攻カリキュラム

心理学専攻には、臨床心理士ならびに公認心理師の養成を目的とした「臨床心理学コース」がある。

1. カリキュラムの特色と構成

臨床心理学コースのカリキュラムは、必修科目と選択必修科目からなる。

- (1) 臨床心理学コースは、臨床心理士ならびに公認心理師養成のためのコースであり、カリキュラムは、臨床心理査定、臨床心理面接、臨床心理的地域援助などの技法を修得する実習科目と、臨床心理学のさまざまな理論と心理臨床的研究の方法を修得する科目からなる。実習科目においては、附属の神戸松蔭こころのケア・センターにおける実習や、学外における協力施設での実習などを行う。
- (2) 担当指導教員から修士論文作成のための個別指導を受ける科目として、1年次に「臨床心理学特別研究A・B」を、2年次に「心理学特別研究」を設定している。臨床心理学コースは、臨床心理学を専門とする指導教員から指導を受ける。

2. 授業科目一覧表

(1)【臨床心理学コース授業科目一覧】2023年度入学生

	授 業 科 目	科目 ナンバー	配当 年次	開講 区分	週 時間	単位	分類	公認心理師 カリキュラム 番号	備考
必修科目	臨床心理学特論 A	MP501A	1	前期	2	2	必修		
	臨床心理学特論 B	MP501B	1	後期	2	2	必修		
	臨床心理基礎実習	MP5020	1	通年	3	2	必修		
	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	MP5030	1	前期	2	2	必修	⑥	
	臨床心理査定演習Ⅱ	MP5040	1	後期	2	2	必修		
	臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	MP5050	1	前期	2	2	必修	⑦	
	臨床心理面接特論Ⅱ	MP5060	1	後期	2	2	必修		
	心理実践実習Ⅰ	MP5070	1	通年	6	4	必修	⑩	
	臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習Ⅱ)	MP6010	2	通年	9	6	必修	⑩	
	臨床心理実習Ⅱ	MP6020	2	通年	3	2	必修		
	心理学特別研究	MP6030	2	通年	2	4	A群 (必修)		
選択必修科目	心理学研究法特論	MP5080	1	通年	2	4	A群		
	発達心理学特論	MP5090	1・2	前期	2	2	B群		
	認知発達心理学特論	MP5130	1・2	前期	2	2	B群		
	発達心理学特殊研究Ⅰ	MP5170	1・2	前期	2	2	B群		
	発達心理学特殊研究Ⅱ	MP5180	1・2	後期	2	2	B群		隔年開講
	認知神経心理学特論	MP5150	1・2	前期	2	2	B群		隔年開講 2023年度不開講
	社会心理学特殊研究	MP5190	1・2	後期	2	2	C群		隔年開講 2023年度不開講
	社会心理学特論	MP5200	1・2	前期	2	2	C群		
	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	MP5220	1・2	前期	2	2	D群	①	
	臨床薬理学特論	MP5230	1・2	後期	2	2	D群		
	認知行動療法特論	MP5240	1・2	集中		2	E群		隔年開講
	グループケア特論	MP5250	1・2	後期	2	2	E群		
	児童臨床特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	MP5260	1・2	前期	2	2	F群	②	隔年開講 2023年度不開講
	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	MP5270	1・2	前期	2	2	F群	③	隔年開講
	司法・犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	MP5280	1・2	集中		2	F群	④	隔年開講
	産業・労働心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	MP5290	1・2	集中		2	F群	⑤	隔年開講
	家族療法・ブリーフセラピー特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	MP5300	1・2	後期	2	2	F群	⑧	
	心理教育特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	MP5310	1・2	後期	2	2	F群	⑨	
	臨床心理学特別研究 A ☆	MP532A	1	前期	2	2	F群		
臨床心理学特別研究 B ☆	MP532B	1	後期	2	2	F群			

《注意事項》 ☆マークのついている科目は、選択必修科目であるが、1年次に全員履修することが望ましい。
(詳細については、39～40頁「履修上注意を要する点について」を参照のこと。)

3. 修了要件・単位履修方法

修士課程を修了し、修士の学位を取得するためには、臨床心理学コースは42単位以上を修得した上で修士論文を提出し、後に述べる論文審査と最終試験に合格しなければならない。修士課程学生は、在学中に研究倫理教育の講習を受けなければならない。

※単位や履修状況については、教務課が履修チェックを行う訳ではないので、各自責任を持って大学院要覧を確認し、注意しておくこと。

(1) 臨床心理学コース履修方法

①必修科目30単位

②選択必修科目の分類A群4単位、B、C、D、E群からそれぞれ2単位以上の計12単位以上

③上記①、②を含み合計42単位以上を修得しなければならない。

④修士論文指導は、「心理学特別研究」において行う。

⑤臨床心理学コースを修了することで、臨床心理士受験資格が得られる。一方、公認心理師の受験資格を取得するためには、「公認心理師関連科目」をすべて履修しなくてはならない。

※公認心理師受験資格を得るためには、大学院入学以前の大学学部においても必要な科目を修得していることが必要である（詳細については、41頁「公認心理師の資格について」を参照のこと）。

4. 論文審査と学位認定の方法

論文の審査は、主査1名と副査2名で行う。主査と副査は提出された論文を査読し、その結果をもとに論文審査を行う。加えて、修士論文提出後に、主査と副査による口頭試問を行い、その後、その他の教員を交えて公聴会を行う。論文審査の結果と、口頭試問および公聴会における発表と質疑応答の内容をもとに、主査と副査が評価を行い、これらをもって最終試験とする。なお、臨床心理学コースの修士論文は、テーマと内容が臨床心理学に関するものでなければならない。

5. 修士論文 審査基準

修士論文は大学院での研究教育の成果を表すものとして、次の基準を満たすものでなければならない。

- (1) テーマの明確性：研究テーマが明確で、その意義や必要性が述べられていること。
- (2) 研究方法の妥当性：研究目的に照らして研究・分析方法が適切であること。
- (3) 先行研究の展望：研究テーマについての先行研究が十分に理解され、検討されていること。
- (4) 論理の一貫性：論文構成が的確で、論理展開に整合性、一貫性があること。
- (5) 独創性および発展性：学術的に独創性があり、また発展性を含むものであること。
- (6) 倫理的配慮：研究方法や研究対象に対する倫理的配慮がなされていること。内容によっては神戸松蔭女子学院大学研究倫理委員会の承認を得なければならない。

提出にあたっては次の事項に留意すること。

- (1) 学術論文として適切な形式上の要件を満たしており、細部に関しては、専攻で配布する「修士論文執筆要項」に従っていないといけない。
- (2) 本人以外の知見を参照する時は適切な方法で引用し、他者の著作権を侵害するものであってはならない。
- (3) 本人の知見を参照する時にも、自己剽窃とならないように適切な方法で引用しなければならない。

6. 学修指導・臨床訓練に関するガイドライン

(1) 【臨床心理学コース】

■重要な日程

2023年4月	M2 学外実習開始
5月	M1 実習開始（学外実習、学内実務実習、等）
7月	M2 前期学外実習報告会 ※院生は全員出席のこと。
7月下旬～8月上旬	M2 修士論文研究中間報告会 ※院生は全員出席のこと。
9月25日～9月30日	M2 修士論文題目登録期間
10月	M1 学内ケース担当実習開始
12月	M1 修士論文構想発表会

2024年1月6日～15日	M2 修士論文提出期間
2月	M1・M2 後期学外実習報告会 ※院生は全員出席のこと。
2月10日～24日	M2 修士論文公聴会・口頭試問 ※院生は全員出席のこと。

■指導教員について

修士課程心理学専攻臨床心理学コースでは、「臨床心理学特別研究A・B」および「心理学特別研究」の担当教員1名を指導教員とし、臨床心理学に関する修士論文の執筆に向けた指導を受けることとする。なお指導教員は同時に、臨床指導責任者となる。

各学生は修士課程の1年次前期の初めに指導教員の希望調査を行い決定する。指導教員希望調査は4月7日(金)の13:10までに、大学院共同研究室へ提出すること。なお「臨床心理学特別研究A」はM1の前期、「臨床心理学特別研究B」はM1の後期に履修となるが、「臨床心理学特別研究A」から「臨床心理学特別研究B」で指導教員を替えることは可能である。ただし「臨床心理学特別研究B」の指導教員はそのまま「心理学特別研究」の指導教員となり、変更はできないので、慎重に選択すること。なお、「臨床心理学特別研究B」で指導教員の変更希望があるかどうかについては、7月末頃調査を行う。

■教職員

授業担当教員（*臨床担当教員）

教 授	大和田 攝子*（神戸松蔭こころのケア・センター所長）	専任講師	山本 竜也*
	久津木 文	非常勤講師	浅田 慎太郎
	小松 貴弘*（心理学専攻代表）		小野 久江
	坂上 元祥		金丸 由佳里
	坂本 真佐哉*		黒田 綾
	谷川 弘治		榊原 久直
	土肥 伊都子		首藤 由江
	鳥居 さくら		巢黒 慎太郎
准 教 授	黒崎 優美*		水野 泰行
	中村 博文*		

神戸松蔭こころのケア・センター

相 談 員 大島 崇徳（実習指導員）

大学院共同研究室

事 務 員 穴田 敦子
杉本 圭子

■修士論文について

専攻の最終年度には修士論文を提出する。修士論文の作成・提出の際には、以下の事項を満たすこと。

- (1) 修士論文は、実証的研究（量的・質的）あるいは文献研究とする。
- (2) 実証的論文は、序論、方法、結果、考察、文献からなることを原則とする。
- (3) 修士論文は、テーマと内容が臨床心理学に関するものでなければならない。
- (4) パソコン使用を原則とし、次の構成とする。
 - ①表紙（題目、修了予定年度、学籍番号、氏名、指導教員名を明記する）。指導教員とは、「心理学特別研究」担当者を指す。
 - ②要旨（和文A4用紙縦置き・横書きで3枚程度、1枚の文字数は40字×30行とする。題目、学籍番号、氏名、指導教員名を明記する）
 - ③目次
 - ④本文（「序論」から「文献」までを含む）
 - ⑤付録（質問紙、本文中に掲載できなかった図表、逐語録などを必要に応じて添付する）
 - ⑥①から⑤を指定透明ファイルに綴じる。
- (5) 本文は和文A4用紙縦置き・横書きで、1枚の文字数は40字×30行とする。ページ数は、図表を含め30ページ以上40ページ前後を目安とし、各ページにページ番号を付ける。図表は、図1、表1・・・と図表ごとに通し番号を付け、本文の該当箇所に掲載する。

- (6) 記述の詳細については、フィンドレイ（著）「心理学実験・研究レポートの書き方」（北大路書房）、日本心理学会（編）「執筆・投稿の手びき」などを参照する。
- (7) 引用文献は論文の最後に、著者名（姓）のアルファベット順に一括してあげる。詳しくは、(6)にあげた資料を参照のこと。
- (8) インターネットのホームページ上の文章を引用することはあまり望ましくないが、止むを得ず引用した場合はすべての出典を明記する。
- (9) 剽窃(盗用)、データの恣意的改変などは厳禁とする。回答済み質問紙等、個人情報に関わる紙媒体のデータを共同研究室に提出する（5年間保管）。
- (10) 脚注は通し番号をつけ、本文中にそれに対する番号を付す。
- (11) 文章は常用漢字、現代かなづかいを用い、簡潔明瞭に記述する。
- (12) カタカナは、原則として日本語化した外国語を記述する時のみ用いる。
- (13) 本文中の外国語の使用はできるだけ避け、外国人名、適切な日本語訳のない術語、書物やテスト名などにもみ用いる。
- (14) 数字は原則として算用数字を用いる。
- (15) 略語の使用は、一般的に用いられるものに限る。ただし、必要な場合には初出のときにその旨を明記する。
- (16) 図表の掲載は必要最小限とし、重複を避ける。
- (17) 表の題はその上部に、図・写真の題は下部に書く。説明文はいずれも下部に記す。
- (18) 修士論文は、大学院共同研究室から渡される指定透明ファイル（ルーパーファイル、白色）に綴じ、正本1部と副本2部、計3部を作成する。
- (19) 修士論文は返却しないので、提出前に各自コピーをとっておくこと。

■履修について

「臨床心理基礎実習」（M1）、「心理実践実習Ⅰ」（M1）、「臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）」（M2）、「臨床心理実習Ⅱ」（M2）の実習科目には、学内施設実習、学外施設実習、スーパーヴィジョン、カンファレンスへの参加と報告、事例論文の執筆、等々の、多彩な実習、演習が含まれる。

<M1における実習内容（「臨床心理基礎実習」、「心理実践実習Ⅰ」）>

- ・学内施設（神戸松蔭こころのケア・センター〔以下、ケア・センター〕）での実務実習
- ・学外施設における実習（見学実習、支援実習、心理検査実習を含む）
- ・ケア・センターでのケース担当実習（詳細は、40頁「臨床訓練について」を参照のこと）
- ・カンファレンスへの参加と、担当ケースの報告
- ・担当ケースについての、学外スーパーヴァイザーによるスーパーヴィジョン

<M2における実習内容（「臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）」、「臨床心理実習Ⅱ」）>

- ・学外施設における実習
- ・ケア・センターでのケース担当実習
- ・カンファレンスへの参加と、担当ケースの報告
- ・ケア・センター担当ケースについての、学外スーパーヴァイザーによるスーパーヴィジョン
- ・担当ケースについての、事例論文の執筆

○履修上注意を要する点について

- ・「臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）」および「臨床心理実習Ⅱ」の履修は、「臨床心理基礎実習」の単位修得後でなければ許可されない。つまり、「臨床心理基礎実習」の単位をM1の時点で修得できなかった場合には、2年間での課程修了は不可能となる。
- ・「臨床心理査定演習Ⅱ」、「臨床心理面接特論Ⅱ」は、それぞれに対応する「Ⅰ」の科目を履修した後でなければ履修することはできない。
- ・「臨床心理基礎実習」（M1配当）が金曜5・6限、「心理実践実習Ⅰ」（M1配当）が土曜2～4限、「臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）」（M2配当）が土曜1～5限、「臨床心理実習Ⅱ」（M2配当）が木曜1・2限となっている。履修登録は、それぞれこの時間で行うこと。なお、実際の実習科目の進め方について

は、それぞれ担当者から聞くこと。

・毎週木曜10：00から12：15に行われるカンファレンスには院生全員出席すること。

■臨床訓練について

○臨床指導責任者について

・臨床指導については、「臨床心理学特別研究A・B」「心理学特別研究」の指導教員がその責任を負う。したがって、指導教員とよく相談をしながら臨床活動にあたること。

○ケア・センターにおけるケース担当までの流れ

①M1前期の訓練状況判定：授業（「臨床心理面接特論I」の単位修得を含む）、カンファレンス、ケア・センター実務実習、ゼミ、等々の様子に基づいて院生ごとの訓練状況を、臨床担当教員全員で検討する。検討の結果、ケース担当が可となった場合には、以下の②以降に進む。不可となった場合には、引き続き当該院生の状況を観察しつつ、適時可不可の判定を行う。

②指導教員と相談の上、スーパーバイザーを決定する。なお、スーパーバイザーは、既定のリストの中から選択すること。

③臨床心理士、または公認心理師有資格者が行うインテーク面接に陪席する。なお、初めて陪席に入る際には、M2以上の経験者と組んで行うこととする。また、陪席は、スーパーバイザーが決定していない場合でも可とする。

④原則として陪席を少なくとも1ケース経験し、スーパーバイザーが決定している場合に、ケース担当が可となる。なお、実際にあるケースを担当するかどうかについては、インテーク面接担当者および指導教員と相談した上で決定すること。

○スーパービジョンについて

・修士課程の院生、および臨床心理士資格取得前の研修生がケア・センターにてケースを担当するためには、必ずスーパービジョンを受けていなくてはならない。したがって、修士課程在籍中は、必ずスーパービジョンを受けること。

・スーパービジョン代金は、50,000円までは大学が負担する。所定の手続きにしたがって支払いを受けること。

■その他

○臨床心理学コースで取り扱う資料のうちのかなりのものは、個人情報に関連するものである。そのため、厳重に保護されなければならない。USBメモリ（最低でもファイルのパスワード保護を行っておくこと）、印刷資料（印刷やコピーをする場所、原稿の置き忘れ、シュレッダー）、話をする場所（周囲の状況確認）などに十分に注意を払うこと。

○7月18日～8月31日の期間中に、心理学検定が行われる。臨床心理士、公認心理師の試験対策にもなるので、積極的に受験を検討すること。

○臨床心理学コースでは、公認心理師・臨床心理士資格試験対策講座を開講している。今年度の具体的な内容、対象については、担当教員より追って連絡がある。

○授業、実習、等々の予定が重なる場合の優先順位は、次の通りである。

授業・大学行事 > 学外実習 > 学内実習（担当ケース）

○心理学専攻大学院生の院生研究室は、1312である。

○学部授業および大学院授業の聴講願いは、履修登録期間内に教務課から「聴講願」の書類を受け取り、授業担当教員の署名を受けた後に、教務課へ提出すること。

○アンケートなどの大量印刷物は、印刷ができるまでに最低1週間かかるので、1週間前までに大学院共同研究室へ持参し、依頼すること。その際、そのまま印刷すればよい形にしておくこと。

なお、印刷代金について、片面1,000枚（両面の場合は500枚）以上は料金が発生する。

○授業のレジュメなどのコピーは、各自のコピーカードで行うこと。